

2017

横浜スペイン協会 スペイン・サロン



「劇場型スペイン政治と王室」

安定した天皇制を抱く日本と異なり、スペインは19世紀以降、立憲君主制、共和制、独裁制など様々な政体が入り替わり立ち替わり成立してきました。こうした背景の下、キリスト教や地方自治などの問題と絡んで、21世紀の王室はどのように変化していくのでしょうか。スペインの王室の国内外への広報戦略、生前退位などからは、日本も学べる点があるのではないのでしょうか。本講演では、歴史的視点、国際政治の視点などから現代のスペイン王室を分析します。(細田晴子記)



9月は、日本大学商学部の細田晴子先生をお迎えして表記のテーマでお話を伺います。先生は地域研究、外国語教育、史学一般、西洋史・アメリカ史、国際関係論の分野で精力的な研究を行っています。現在、我が国におきましても皇室をめぐるさまざまな問題が国民の関心を集めています。先生のお話から今後の皇室のあり方について参考になる点を学びたいと思います。また、面白い裏話も伺えるかと存じます。細田先生の貴重な講義に皆様のご参加をお待ちしております。

日時:2017年9月30日(土) 13:30~15:30

会場:かながわ県民センター 304号

横浜駅西口より徒歩5分

参加費:会員900円、非会員1000円

お申込み&お問合せ:

Tel&Fax:0467-43-6973 (服部)

kfk.2010@clear.ocn.ne.jp (服部)

norih0703@gmail.com (平本)

※ただし、9/14~9/25にお申込みの場合は、平本までお願いします。



細田晴子氏 プロフィール

東京都生まれ

東京外国語大学スペイン語学科卒、スペイン国立コンプルテンセ大学博士号(歴史学)、スペイン大使館を含む外務省勤務を経て現在日本大学商学部准教授。主に人物を中心とした、国際社会の中のスペインを研究している。また、nippon.comなどで、日本について、スペイン語圏を含む海外へ広報する。著書に「戦後スペインと国際安全保障」(千倉書房)、「カザルスと国際政治」(吉田書店)、「カストロとフランコ」(ちくま新書)などがある。

